

令和2年度第4回札幌市学校給食運営委員会 議事録

I 開催日時

令和3年2月25日（木）9：00～10：30

II 開催場所

札幌市教育委員会 4階会議室

III 出席者

1 委員 14名

附田委員長、池田委員、宮越委員、相馬委員（札幌市小学校長会4名）
高橋委員、三浦委員（札幌市中学校長会1名）
千葉委員、松宮委員（札幌市学校給食栄養士会2名）
中野委員、村形委員、井手委員、阿部委員（札幌市PTA協議会3名）
油屋委員（札幌市学校給食会1名）
百々瀬委員（学識経験者1名）

2 事務局 7名

前田保健給食課長、泉栄養指導担当課長、羽田給食係長、
北市制度担当係長、竹腰栄養指導担当係長、鴛海栄養指導担当係長
吉田給食係員

3 傍聴者 報道機関記者 1名

IV 欠席者

運上委員

V 開会

○ 委員長より、非公開とすることを確認。

VI 議事等

1 令和3年度学校給食費の算定について

【委員長からの説明】

- 学校給食費は、これまで主食単価、牛乳単価、副食単価の合計から一食単価を出し、それに年間基準実施回数を掛けることにより算出している。
- 前回の会議において、推定値だった一食単価の確定値が事務局から示された。また、回数については、次年度以降に審議する課題は様々にあるけれども、令和3年度の分については、今年度の年間基準実施回数と同様にすることで確定した。
- 令和3年度学校給食費については、先ほどの一食単価の確定を踏まえつつ、据え置きとするか値上げとするかについてご議論いただき、令和3年度の学校給食費に係る答申をまとめていく流れにしたい。

【事務局からの説明】

- 資料は、第3回委員会において確定値をお示しした一食単価と年間基準実施回数を積算した値になる。令和3年度学校給食費について、コロナ禍の状況などを踏まえ、案1として現行と同額とする内容を提示させていただいたものになる。
- こちらは、資料の積算値を踏まえ、案2として値上げとする内容を提示させていただいたものになる。なお、第2回会議において、端数などは切り捨てる必要はなく、校務支援システムにより対処可能であると委員からご指定いただいているため、1円単位となっている。

【質疑応答】

| | |
|------------|--|
| <p>委員長</p> | <p>事務局から、令和3年度の学校給食費について2案が示された。案1は現行と同額とし、据え置く案、案2のほうは積算値を踏まえた値上げ案です。左右を比較しますと584円とか601円となっていて、右側のほうが値上がりしていることになる。</p> <p>それでは、もしあればご意見の中で伺えればと思います。</p> |
| <p>委員</p> | <p>前回もご報告したが、全体での校長会での会議が持てない状態。前回ご報告したとおりに2地区からは値上げはやむを得なしというご意見をいただき、個人2名の理事から、状況的に値上げは厳しいのではないかという意見をいただいた。</p> <p>全体での審議はできていないが、今回、臨時の役員会を開き、マスコミ等から聞いている情報から市民の仕事の状況等を考えていくと、現状で値上げをするのは厳しいのではないかとということで、現状のままと判断している状況。</p> |

| | |
|----|---|
| 委員 | <p>食材の高騰で実際に費用がかかっているが、値上げをすることには非常に敏感になっているとは思う。しかし、現状を考えると、生活保護または就学援助を受けていないご家庭の経済状況は逼迫している。本校の集金の状況を考えたときも、かなり苦しいという話を聞いている。他校がどうかということは私には分からないが、現状、経済がまだ動き出していない状況では、次年度についての値上げはなかなか難しい状況と考える。これは私見です。</p> |
| 委員 | <p>前回のそれぞれの立場からのお話を受け止めさせていただきながら、いろいろと考えさせていただいた。皆様方からいただいたご意見は、どれも間違いのないと思っている。栄養士会の方々の逼迫している状況であったり、保護者の立場など、いろいろな部分を考えさせていただいている。</p> <p>今後、考えていかなければいけない問題があると思っているが、どういう形でその問題を解決していったらいいのかというところは、この間もありましたけれども、時間をかけて検討をしていくことになると思う。</p> <p>令和3年度はどのような形を取っていけばいいのかということは、前回もお話しさせていただいているが、据え置きの方で何とかご了承いただけないかと考えている。</p> <p>コロナ禍の状況で金額を上げることに對しての抵抗感はずごく大きいと感じている。問題が解決するのかと言われるとなかなか難しいのだが、次年度の分を早急に考えていかなければいけない部分については、据え置きの方で検討していけばいいと考えている。</p> |
| 委員 | <p>校長会としては、給食費を値上げすることなく、現状を据え置く形でぜひとも進めていただきたい。</p> <p>前回の会議で、様々なお立場の中に課題等があることはよく理解できたところだが、現状の市民感情や保護者の皆さんのことを考えると、今年度の値上げについては見送るべきという校長会の考えに変わりはありません。</p> <p>前回、いろいろな課題が出ていたが、例えば、次回の値上げ幅や回数に関わりなどについて、今回、もし据え置きをすることになっても、このような話し合いがなされた上での結論であれば十分な理解を得られると思っている。</p> |

| | |
|----|---|
| 委員 | <p>校長会として、結論的には、次年度は据え置きということで考えをまとめている。昨今、物価が上がっていることなどはもちろん分かっているが、実際に令和2年度は、小学校が200円に、中学校が250円に給食費が上がって、さらに上げるのは、保護者の感情などからなかなか難しいと思う。</p> <p>また、現状はコロナ禍で本当に先が見えないことがあるので、連続して上げることは果たしていかなものかと思う。</p> <p>栄養士会では、実際にかかるお金のやりくりなどで物すごく大変なことも分かっている。次年度は据え置きとしながらも、実施回数が基準回数と比べて10回も違うなど、幅があるので、その部分を校長会としてしっかり話をしながら進めていきたいと思う。</p> |
| 委員 | <p>前回、いろいろなお立場で皆様からご意見をいただいたので、理解がすごく深まったと思っている。その上で値上げをしたいところだけれども、据え置きをせざるを得ないのが令和3年度の方角と考えている。</p> <p>先ほど、小学校長会と中学校長会の委員から、令和3年度は、食材の値上がりなどで値上げをしたい状況にもかかわらず、値上げができない状況なので、実施回数などについてきちんと話し合っていくというお話があった。</p> <p>皆様が栄養士会にご迷惑をかけない形で、令和3年度の給食費について考え、取り組んでいくのだということを共通認識としてお持ちであれば、据え置きでも仕方がないと考えている。</p> |
| 委員 | <p>前回もお話をさせていただいたが、各学校の栄養士は苦しい中で給食を運営している状況があるが、今、校長会の委員の方々からご協力いただけるとのお話しいただき、大変心強いことであると感謝申し上げます。</p> <p>食材の値上げに関しましては、社会情勢でありますので、仕方がないと思う。また、給食費が値上げできない部分に関しては、私たちがさらに努力をしていかなければならないところと理解した。</p> <p>食数が多くて実施回数が多い学校は、いろいろと複雑に苦労が重なっていく状況がある。給食費が上がらないことは仕方がないと納得するが、実際に令和3年度に入ったら回数を</p> |

| | |
|-----|--|
| | <p>かなり配慮していただきたいところがある。</p> <p>献立作成が厳しい中でどのようにお金を捻出しているかの工夫を私の学校でやっている工夫をもとに資料を作成した。</p> <p>献立作成の苦労をもう一つご理解いただければと思い、お話しさせていただいた。</p> |
| 委員長 | <p>お聞きしていて、苦労が具体になればなるほど本当に頭が下がる思い。</p> <p>先日、自校の栄養教諭からどういうことが起こるのかということをして1時間かけて詳しく聞いた。本当に頭が下がる思いでお聞きしていた。それを踏まえて、学校としては、基準回数を努力規定できちんとやらなければならないと思った。</p> |
| 委員 | <p>複数年参加している身として、前回までの委員会に出席して違和感を覚えていたのは、今まで、給食費の算定の上げ下げのお話のときに、協議会としてどうなのかと聞かれたことがない。</p> <p>前回話したとおり、PTA協議会では、ここにいる4人のメンバーについては、子どもの給食費の内容を考えると、1食当たりの単価が上がるのであれば上げるべきであろうという意見で一致している。</p> <p>個人的なお話をさせていただくと、私はコロナ禍においてダメージを大きく受けた業界にいる。そのことを考えると、給食費をこのタイミングで上げることについては、多くの保護者からこれはどういうことなのだという話が出るのは想像できる。</p> <p>もう一つは何回か言ったことがあるのですがけれども、この委員会の開始の時期が遅いということです。資料の中に1食当たりの単価を載せなければ検討できないので、12月に開始する意味が分からないことはないのですが、例えば、実施回数や1食当たりの単価が上がったときにどう判断するかということは、単価が出る前に協議できるのではないかと思います。</p> |

| | |
|----|--|
| 委員 | <p>客観的には、食材が上がったら給食費も上げるのが本心だが、コロナ禍であまりにもイレギュラーな年ということを見ると、時期が時期なので、しょうがないところだと思う。</p> <p>来年度はどう調整するのだということは、先ほど栄養士の委員から出ていたように、学校で回数を若干調整していただければと思う。</p> <p>実施回数の話が出たが、遅くとも最後の会を12月くらいに終わらせて、それでも話がまとまらないときは、あくまで臨時で1月・2月のスケジュール感で開催されればいいと思った。</p> |
| 委員 | <p>栄養士さんは毎月献立表を出してくれているのだが、それを見ながら、栄養を本当にバランスよく考えて、いろいろと手の込んだ献立を立ててくれていて、すごくありがたいと感じている。</p> <p>今は働いている親が多く、子どもにバランスよく食事を与えることができないので、どうしても給食に頼る部分がある。朝と晩で取れない栄養がお昼の給食で取れているという安心感もあると思う。</p> <p>現場にいる皆さんの大変さについて、事実を公表すると親は納得すると思うので、そういうことを考慮しながら、来年度はうまく給食運営ができることを願います。</p> |
| 委員 | <p>食育ネットワーク会議に2年間在籍しているが、この前の道P連のときに食育に関して発表させていただいた立場から申しますと、栄養士会の皆さんが、食育をすごく頑張っていて、給食でいろいろと工夫してくださっていることは知っている。</p> <p>皆さんが子どもに朝ご飯を食べさせるのがすごく大変で、そこで苦労している実態を調べて報告させていただいたのですが、そういう中で給食を1食食べて帰ってきてくれる安心感がある。</p> <p>お金に糸目をつけずとは言いませんけれども、栄養士会の皆さんがあまり苦労することなく、食育に関していろいろな試みをしていただけるだけの幅を持たせていただければと思う。</p> |

【委員長から】

- 値上げをしたいところではあるが、タイミング等を踏まえると据え置きはやむを得ないというご意見が多い状況だった。
- 栄養士会の皆様方から具体的な資料を頂戴したが、年間基準実施回数については、本当に努力規定と捉えて取り組んでいかなければならない。
- 来年度の予定等については学校行事がほぼ決まっているが、実務担当の教務主任と校長がその辺りを給食という目でしっかり見ていくとか、親子の関係も、両校の校長が実施回数について話さなければと思う。
- 委員会の中で話し合った事柄が様々にあった。年間基準実施回数の設定、値上げするときの値上げの幅やタイミング、返金や追加徴収、未納対応、公会計化などもあった。これらは、短期で話し合えるものもあるが、中長期のものもある。各団体での総会を経て、一堂に顔を合わせるとしたら、1学期でもできる状況あると思うので、その中で本質的な議論をどんどんしていきたいと思う。
- 当委員会としては、事務局から示していただいた案1のとおり、令和3年度の学校給食費を据え置くこととしたいと思う。
委員の皆様、いま一度よろしいでしょうか。

[委員からの異議なし]

- それでは、それ以外についてお願いします。

【質疑応答】

| | |
|----|--|
| 委員 | <p>来年度の給食が早速動きますので、大変恐縮ですが、前回の第3回のときに事務局からいただいた実施回数の表をまとめ直したものを用意した。</p> <p>来年度の予定回数分布図、予定回数がまとめられているのだが、基準回数より多い学校が61%になっていた。これは、これから校長会から呼びかけて赤線の基準回数に近づけていく努力をすることになると思っている。</p> <p>あわせて、中学校についても基準回数に対してどれだけぶれているのかという回数を出している。ピークが基準回数より完全にずれている。基準回数については、来年度の早い時期から検討していただけることになると思うのだが、平均値よりも基準回数が明らかに下がっている中で来年度の給食をスタートする、なおかつ物価は3円上がっており、さらに、前回の委員会で、未納が増えるというお話をいただいている。</p> |
|----|--|

昨日、教務主任と栄養士を呼んで、校外学習は弁当にしなれば赤字になりますという話をさせていただいている。それがいいかどうかといわれると、非常に駄目なことだと思っているが、赤字になってしまうことを考えると、早めに対応することがいいということで、可能な限りお弁当のほうにしたほうがいいですという話をさせていただいている。

小学校のピークが1回、2回と完全にずれている中で給食を運営しても本当に大丈夫なのだろうかと考えます。

働き方改革と言われている中で、教頭が電話をかけて集金に回っていくしかないと思う。お金が足りないときにどうしたらいいのかということについて、学校としてどう考えたらいいのか本当に分からなくなってきたので、それについて皆さんのご意見やお知恵をいただければと思います。

もう一点は、校長会でかなり問題になっているコロナ禍における返金対応。コロナウイルスのために学級閉鎖が2週間程度ありましたが、その返金の仕方について、コロナウイルス感染症が同じ時期に同じ学校で出たときに、たまたま閉鎖になった学級に関わっていた子どもの個人の出席停止の返金額が異なっていた。

栄養士さんからお話を伺うと、なぜ高い金額で返すのかということを知っています。しかし、それには答えようがありません。単価ではないのですかと聞くと違いますということで、相当高い額で返しているということです。給食費が非常に少なく、厳しくなっていたと言われました。

これについては4月からも予想されますので、早々に検討していただくなり、普通の正しい方向というか、クレームの出ない方向で検討していただかなければならないと思う。

小学校はなかったのだが、中学校では、札教研という全市の先生方の研究会が開催できなくなった。これは午後からの開催で、小学校の札教研は必ず給食を出しますので、影響はなかったのですが、中学校の栄養士さんからは、1校丸々の給食を2回分出さなければならないことになりました。中学校は小学校に比べると子どもの数が多いので、相当な金額になるとは思いますが、その分はどう補填されるのだというお話を伺いました。私はこれは相当なダメージだと思っている。

| | |
|-----|---|
| | <p>それ以外にも行事が中止になって、給食を出さざるを得ない状況がかなりあったので、返金や行事の中止で給食を出してお金が足りなくなったことによる追加徴収等について、早い段階で決めていただかなければ、学校としても大変です。</p> <p>未納も増えることも含めると、その辺の対応をどう考えたらいいのかと考えます。これらのことを早めに決めていただかなければ、4月も同じように多く返したり、返す金額が違ったりすると思います。</p> <p>あまりにも考え過ぎかもしれませんが、私は教頭と、コロナでは給食費を返すが、インフルエンザでは返さないという話をしていたのですが、これでは理屈にはならないので、どう説明すればいいのかという話になった。</p> <p>全体的に、まず返金のこと、そして、追加徴収のこと、それから未納が増えた場合にどう対応すればいいのかということです。それから、実際にお金がないときには、札幌市給食会さんや北海道学校給食会さんに払えませんかというお話をし、頭を下げるしかないのかと思っていますが、それらのことについてどう考えたらいいのか、皆さんのご意見等、お知恵をいただければと思います。</p> |
| 委員長 | <p>膨大な時間をかけて調査研究をした資料を提供いただいた。次年度以降の早い時期から委員会を始めて、今の事柄にも触れていただければと思う。</p> <p>資料は、基準回数より実施回数が多ければこうなるとか、少なければこうなるという具体的なことが書かれている。昨日のオンラインの役員会でも令和3年度の基準回数を守っていただくための資料として、早速、校長会で共有していきたいと話していたところです。それ以外のことについては、来年度の運営委員会で深くご協議いただければと思う。</p> |
| 委員 | <p>コロナウイルスによる学校閉鎖のときと個人の返金額が違うというお話しをされたが、返金額については、今回ですと一食単価の328円になると思うのですが、各学校で実施価格が違うわけで、その価格で献立を立てなければならない学校がどうして基準の価格で返さなければならないのかということに納得がいかないのです。回数で割った金額が実際の金額だと思う。</p> |

| | |
|----|---|
| | <p>休んだ日から起算しているところも苦しくなる一つです。私たちに連絡が来るまでに、時間的なずれがありまして、確定するまで休みが続くものなのかどうなのか分からないので、いついつまで休むことになったという連絡を耳にしてから発注変更で数量を減らします。実際に給食を止められるのは数日たってからになります。しかし、コロナウイルスですと休みが長いので、大体は返金することになります。</p> <p>休んだので、食べなかった日の分を返すとなると、給食費への負担が大きいので、止めたから返しますという考え方を早急に変えていただきたいと思います。4月に入ってもそういう返金が続くと思われるので、新年度の給食に影響がない段階で、早急に決めていただければと思う。</p> <p>金額もできれば実施価格でお返しできればと思う。学校ごとに違う金額だとは思いますが、それが本当の金額ですので、回数が多い学校ほど一食単価で返すと負担が大きくなっていきます。ですので、現実と合わないところをご理解いただいて出していただけたら大変ありがたいと思う。</p> |
| 委員 | <p>追加徴収の件について、今日のご回答いただけないと思うが、小学校長会と中学校長会では、割と早い時期に、委員会に1回ご相談させていただいて、追加徴収をしないということで今年度はやってきました。来年度の追加徴収をするしないについては、本当に早い時期に検討していただきたいと思う。私は追加徴収をしないのですかというお話をしましたが、いろいろと考えいくと追加徴収は非常に難しいことが分かりました。</p> <p>年間基準実施回数以下でやっている学校の場合ですと、例えば、札教研などの行事がなくなったので、給食が1回増えることになると、さらにお金を徴収する理屈になる。自分の中でもなかなかうまく整理できないのだが、基準回数が完全に守られるなら、基準回数以上に給食の回数が増えた場合はいただくべきだろうと思う。しかし、先ほど示した表のとおり、回数の多い学校ばかりではなく、少ない学校もかなり出てきている。基準回数が少ない学校から追加徴収をすると、余計にお金を徴収することになるので、そのことを保護者が知ったら、えっということになると思う。その辺のこと</p> |

| | |
|-----|---|
| | <p>があって、今回は早い時期の追加徴収は難しいのではないかと考えた。返金と追加徴収は検討していただきたいと言いましたが、追加徴収のほうはかなりナーバスな問題だと思っている。そもそも基準回数がすごくナーバスな問題だとずっと言い続けていますけれども、その辺も含めてご検討いただければと思う。</p> <p>公会計化の話がいよいよ出るということで、校長会の先生方に検討が始まりますというお話しが伝わっていると思いますけれども、前回、事務局にお願いした政令指定都市の公会計化の関係と給食センターとの関係について、今日は調査の内容をいただけるのでしょうか。</p> <p>今年で委員の任期が終わるのですが、公会計化のことなど、いろいろな情報を校長先生と共有した上で去っていきたいと思っている。札幌だけが特有の形で運営されていることが裏づけされた資料として、ぜひともいただきたい。</p> |
| 事務局 | <p>政令指定都市の中で、公会計化している都市については5市になる。仙台市と千葉市、横浜市、大阪市、福岡市の5市になる。</p> <p>給食の実施方法は、札幌のように自校で調理をするところもあれば、センターを併用しているところもある。札幌は中学校、小学校ともに完全給食の形になっているが、自治体によっては、中学校と小学校の給食の提供の仕方が異なっている状況になっている。一覧表として見やすい形でご提供するというのは難しいと思う。</p> |
| 委員 | <p>一覧表ではなくて結構です。各政令都市について小・中別でどのようなになっているかを教えていただければ、校長会でこういう状況ですというお話をさせていただけると思いますので、ぜひとも政令指定都市別に徴収方法、実施方法の一覧をいただけると大変ありがたいです。</p> |
| 委員長 | <p>しかるべきタイミングで情報提供をいただければと思います。このメンバーで会することはないかもしれませんが、引き続き、来年度の運営委員会の皆様方の審議に資する資料でもあるので、ぜひお願いします。</p> <p>それでは、令和3年度学校給食費についての答申について検討したいと思いますが、今の議論を踏まえて準備いたしま</p> |

すので、前回と同じく10分ほど休憩を取らせていただきたいと思います。よろしくお願いします。

[休 憩]

【委員長から】

- 10時5分になりましたので、予定どおり審議を再開させていただく。令和3年度学校給食費についての答申について検討したいと思う。

<令和2年度学校給食費に関する答申内容について>

【事務局からの説明】

- 答申（案）を委員へ配布。
- 答申（案）の内容を読み上げ。

【質疑応答】

| | |
|-----|--|
| 委員長 | 年間基準実施回数のくだりがある。答申なので、事実だけを淡々と記載する体裁になってしまうのはやむを得ないと思うが、「年間実施回数に近づける必要がある」と書いてあるので、そこだけが少し強調されていると見ました。その辺りはいかがですか。例年と比べて同じですか。 |
| 事務局 | 2番の年間基準実施回数についてですが、なお書きのところですが、「なお、各学校の給食実施回数については、公平性の観点から、年間基準実施回数に」とあります。例年ですと、この後ろに「可能な限り近づけるように努める必要がある」という言葉が続いて、努力してくださいという表現をしていたのですが、今回は、「近づける必要がある」と言い切る形にしておりまして、若干厳しい言い方をさせていただいている内容になっている。 |
| 委員長 | 厳しい言い方というか、当委員会の議論を踏まえてということですね。小・中の校長会は、この文言に着目しながら、周知、啓発、徹底を図っていただければと思います。 |
| 委員 | 2に関しては、表現を変えていただいたということで、委員会の話し合いが反映された形で大変うれしく思っている。 3番だが、2行目のところに、「現行の学校給食費の範囲内 |

| | |
|-----|---|
| | <p>にあると考えることから、令和2年度と同額とする」と書いているのですが、これはしようがないのでしょうか。</p> <p>「値上がり傾向にあるものの、社会状況から、範囲内に収めるよう努力するという条件つきでこの金額にした」ということだと思う。言葉の使い方次第で答申としてふさわしい表現になると思うが、この意味合いでは話合いのことが反映されていない気がするのですが、いかがでしょうか。</p> |
| 事務局 | <p>委員からご指摘のありました文言を追加したいと思う。</p> |
| 委員 | <p>ほかの皆様はいかがでしょうか。このままでいいよということであれば皆様のご意見に従います。ただ、これは決してみんなが納得した金額ではなかったと思うので、せっかく話し合ったことが消えてしまって、来年度につながらないと思いました。</p> |
| 委員長 | <p>先ほどの、まさに値上げしたいところだけでもやむを得ずというくだりについては、委員からも丁寧な説明をしていただきたいというお話がありました。私はそれが皆さんの総意だと思います。</p> <p>ただ、答申に一つ書くとその訳も書かなければならなくなり、その訳を書くともた、また書かなくてはならないので、ものすごく膨らんでしまう。端的に書かなければならないという体裁を踏まえると、今の委員の意見であれば、一言なので、可能な範囲だと思う。</p> |
| 事務局 | <p>これまで皆さんからいただいた貴重なご意見を踏まえて、委員が言われた社会情勢からというものを答申の中に入れていきたいと思う。</p> <p>表現方法だが、委員長からもありましたとおり、一言を入れたいと思いますが、次へのつながりや答申としての形があると思いますので、調整をして、最終的に委員長と文言の整理をさせていただくことはいかがかと考えている。</p> |
| 委員長 | <p>それでは、私にお預けいただいてよろしいですか。</p> <p>先ほどの積み残した課題については、議事録等をしっかり見て、割愛されたりしていないか吟味して終わりたいと思います。責任をもって行いますので、お任せいただければと思います。</p> |

| | |
|-----|---|
| 委員 | <p>前回と今回の議事録は、最初のときのように送ってもらえるのですね。2回目からは来ていないと思うのですが、それはちょっとおかしいと思うので、2回目以降の議事録が手元に欲しいと思う。</p> <p>他都市の情報は、PTA組織としても欲しいのですが、メールでもよろしいので、できれば早い段階でいただければと思う。議事録はそのままの状態、他都市の情報は、A4判の1枚物で、何市と何市がという端的なものでよろしいので、お願いいたします。</p> |
| 事務局 | <p>議事録については、こちらから皆様にお送りするのが遅れている状況。2回目と3回目、そして、今回の第4回目の議事録も併せて、出来次第、皆様にお送りしたいと考えておりますので、お願いいたします。</p> |

【委員長からの説明】

- 調整いただいた答申を私がしっかり確認し、札幌市教育委員会に提出する。
- 答申を、札幌市教育委員会へ提出し、この答申に基づき、最終的には各校長会で翌年度の学校給食費を決定する。

[委員からの異議なし]

2 その他

【委員長から】

- 議事2のその他。皆様から何かございますか。

【委員から説明】

- 給食の残量が気になる。かれこれ6年くらい自校の給食と子学校の給食をずっと記録化している。アサリの深川井という子どもにとって非常に苦手な井の残量を4年間で右肩下がりにしました。何を残すかということをはっきりさせて子どもたちに訴え、先生方に取り組んでもらうことによって効果が出ている。
- 給食の残ったものでフードリサイクルなどに取り組まれていることは分かっているが、根本は食べることだと思う。残ったものをリサイクルするよりも、とにかく食べることに注力しなければ駄目だと思っている。
- 区内で調べたら、子学校は給食残量を知らされていない。これも栄養士さんに伺いたいのだが、個人的に知らせているところもあるらしいのだ

が、知らないと言う子学校の校長がほとんどでした。残量に対する取組はどうなっているのかということをお教えいただきたいと思う。

【質疑応答】

| | |
|-----|---|
| 委員 | <p>私の学校は小学校ですので、1年生から6年生で食べる学年もあれば食べない学年もあるのだが、子学校に関しては、申し訳ないのですけれども、聞かれたときにお知らせする程度にしている。</p> <p>子学校の給食担当の先生とは密に連絡を取って、献立のことや子どもたちの様子、残量のことなどを話すようにはしていますが、実際の数字に関しては密には知らせていない。</p> <p>子学校のほうが残量が多いのは確かですので、これからは、私たち栄養士会全体として子学校への残量をお知らせして、なくしていきたいと思っている</p> |
| 委員長 | <p>年間基準実施回数の親子関係もそうだが、残量の親子関係などについてはSDGsの動きもあるので、この議論を経て、改めてより広い視野から食育を見直すことが必要ですね。貴重なご意見ありがとうございます。</p> <p>事務局から事務連絡がありましたらお願いします。</p> |

【事務局からの説明】

- 本日まとめた答申については委員長から札幌市教育委員会へ提出していただく。また、今回の答申に関して、マスコミ等から問い合わせがあった場合は、基本的に事務局で対応をさせていただくため、問い合わせが委員にあった場合は、事務局に問い合わせるよう回答いただきたい。
- 昨年度もお願いしたが、当委員会は札幌市の附属機関として位置づけられている。札幌市審議会等委員への女性登用促進要綱の第3条において、附属機関の委員に占める女性委員の割合を40%以上とすることが目標値として掲げられている。本委員会の委員数に換算すると、女性委員が6名以上となった場合に目標値を達成することができる。平成27年度は本委員会の女性委員は5名で、割合は約34%でしたが、各団体様のご協力をいただきまして、平成28年度以降は40%以上と目標を達成しております。今後につきましても目標値以上を維持していきたいと考えておりますので、各団体におかれまして、委員推薦の際には女性委員の登用についてご配慮いただきたい。

VII 閉会